



## 1. 11月は児童虐待防止推進月間です。

厚生労働省では、毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と定め、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動など種々な取組を集中的に実施しています。厚生労働省のリーフレットによると、脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されており、体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼすことがあるとのこと。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きな影響を与えているかも知れません。

親自身が疲れていたり、もともと抱えているストレスが大きいと、子どものちょっとした行動でイライラが爆発してしまうことがあります。イライラが爆発する前に、クールダウンするための自分なりの方法を見つけておくことが大切とのこと。その方法として、①深呼吸する ②風にあたる ③数を数える ④お茶を飲む などの方法があるそうです。

## 2. 人権講演会を実施します。

11月4日(木)、ちゃんへんさんをお招きしてジャグリングのパフォーマンスを披露していただくとともに、講演をしていただきます。ちゃんへんさんは、在日コリアンとして京都に生まれ、厳しい家庭に育てられ、小学校の頃は朝鮮人という理由でいじめを受けていたそうです。次第に、「自分は世の中に必要のない存在なんだ」と考え始めました。そんな生きる目標すら持っていなかった中学2年のときにジャグリングと出会い、人生で初めて喜びと感動を知ることができたそうです。そして、毎日8時間以上練習し、渡米への思いを持ちましたが、それを阻んだのが、国籍という壁でした。世界レベルのパフォーマンス・講演を通して、国籍、いじめ、夢、目標、挑戦、栄光、挫折、蘇生を子どもたちに伝えていただきます。

## 3. 図書館司書の方からのメッセージ

図書館司書の方から、「きれいな津田中で文化祭を楽しもう！(工事が終わり校舎もきれいになりました。校務員さんが塗り直してくれた門もピカピカ輝いています！あとは皆さんのそうじにかかっています。この本を読んで心もすっきりしましょう♪)」というメッセージとともに、志賀内 泰弘(著)ダイヤモンド社『なぜ「そうじ」をすると人生が変わるのか?』という本の紹介がありました。図書室からその本を借りて、興味をもって読み進めると、「気づきのキーワード」がたくさん記載されていました。中でも、『そうじは「気づき」を教えてくれる最も安上がりで最も簡単なトレーニング』というキーワードに感銘を受けました。毎日、校内をそうじしていると、いつもと違う風景に気づくことがあります。例えば、『昨日なかった「落書き」に気づく』といったものです。あるネット通販会社社長は、「職場を自分の家と思う意識につながる」として、そうじの業者さんを雇っていないそうです。また、ある自動車用品販売会社社長は、「せめて職場をきれいに」という思いで、トイレから玄関まで毎日ピカピカにそうじし、その結果、人の心が変わり、会社が変わり繁盛したそうです。本校においても、それらの考え方を見習い、子どもたちや私たち教職員が自分の学校を誇りに思える心を育てていきたいと思えます。